

# 明善同窓会 関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部会報委員会  
連絡先：meizen.dosokai.kanto@gmail.com  
https://meizen.site



## ご挨拶 今年の総会について

関東支部会長 昭和51年卒 井上 樹彦

この2年余りの間、世界を覆い尽くした新型コロナウイルス感染症は、いまだ収束の見通しがつきませんが、人々がマスク姿であることを除けば街には以前の賑わいが戻ってきました。明善同窓会関東支部の皆様におかれましては5月の薫風の中、ご健勝のことと存じます。



コロナ禍によって各校の同窓会は活動休止を余儀なくされ、関東支部の総会も一昨年は平成4年卒によって万端の準備を進めていたのが結局中止に、また昨年は平成5年卒の尽力によって初めてのオンラインでの開催となりました。今年の第36回総会懇親会については幹事会で検討した結果、例年より2か月程先延ばしして7月に、出来る限りの感染防止策を講じた上で、対面(リアル)で開催することといたしました。日時

は7月9日(土) 13時から、会場は2年連続で見送りとなった品川・天王洲アイルの第一ホテル東京シーフォートです。この会場は同窓生の御縁もあつて十二分な下見と打ち合わせを行って、席間の距離を十分にとり、自席のみの飲食とするなど細心の注意を払います。7月にはコロナ禍が更に収まって参加しやすくなることを願っていますが、参加人数にはこだわらず簡素にかつ温かい会にしたいと思っています。

総会の担当年次は、当初は順番通り平成6年卒を想定していましたが、かつてのように同期が集まることが出来ないうえ、かつ総会出席の経験がないこともあり、今年は幹事会の有志でとり行い、平成6年組には来年度の第37回総会を担当してもらうこととしました。戦争の世紀と言われた20世紀に逆行したようなロシアのウクライナへの軍事侵攻は、世界中の人々の憤りと悲しみとともに深く歴史に刻まれるでしょう。コロナ禍に続く理不尽な惨劇は今後、どれほどの傷痕を人々の身体や心に負わせるのか、そんな暗然たる思いを抱えながら、この春、卒業式を間近に控えた明善高校を訪れる機会がありました。母校は何も変わらずに、何事にも微動だにせずに、同じ場所に凛として立って

いました。いつの日かまた賑やかに朗らかに大勢で集えますよう、今年、再びの一步を踏み出したいと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 寛容の心で共に生きる

同窓会会長 昭和50年卒 内村 直尚

明善同窓会関東支部の皆様におかれましては、同窓会の運営にご指導・ご鞭撻をいただいております。こと、心よりお礼申し上げます。

一昨年の第53回および昨年の54



回明善大同窓会中止となりました。当番学年の昭和60年卒諸富和馬実行委員長を始め、委員の方々とも充分な審議の上、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催準備が困難であり、何よりも皆さんの健康と安全を最優先に考え、苦渋の決断となりました。第55回の令和4年度については松田一成実行委員長のもと昭和61年卒が担当となり、今後は1年ずつずれることとなりになりました。令和4年度は今までと異なり、久留米シティプラザで10月15日(土)に開催することとなりました。感染拡大予防のため式典だけを行い、懇親会は行わないように致しました。式典終了後、各学年毎に場所を変えて、懇親会を開催したいという意見が多く出ているようです。

二年前からコロナ禍で生活リズムが乱れ、コミュニケーションが図れず、不安やストレスが増した方は少なくありません。在宅時間の増加で家族の絆が深まった方もいれば、様々な問題が生じた方もいます。また、何かと他人の行動を厳しく見咎める風潮が強まったように思います。しかし、コロナ禍をはじめ地球温暖化など複雑で多様な難題に直面し、私たちは自分一人あるいは一企業では解決できないことや人間の限界に気が付いています。だからこそ、今は寛容さをもって互いに連携して乗り越える時であり、それにより新たな繋がりが生まれると思います。ピンチは変革のチャンスでもあるのです。

このような日常で大切なのは、各人が実現可能な身近な目標をもつことであり、その日々の積み重ねにより将来の希望が見えてくると思います。例えば、ラジ

オ体操などの日常のありふれたことでも毎日の達成感を味わうことで、自分の存在を確認することができま

す。また、寝る前に一つでも良かったことを思い返し、頑張った自分を褒めてあげましょう。互いを認めたり褒めたりすることも大事で、朝の挨拶一つでも相手を認めた行動ですし、認められ褒められた相手は希望が持てるようになります。それを毎日繰り返すことが生きる実感につながります。

心に余裕をもって他人へ接することが大事です。つらさや悲しみを体験すると人は強くなり寛容になります。コロナの時代は心の時代、今は少し立ち止まり準備する期間として、将来この苦勞が報われるよう活か

せればと思います。人とのつながりを大事にして全力で立ち向かうという明善の伝統の下、様々な課題に果敢に挑戦していきたいと思えます。母校明善高校も新しい時代へと進んでいきますが、己に打ち克つ、力を尽くす、その結果、楽天の境地に至る、この「克己・盡力・楽天」の校訓を今後も心に刻み同窓生一同で共有していく所存です。

## ご挨拶

校長 山口 隆嗣



明善同窓会関東支部の皆様におかれましては、日頃から本校並びに生徒に対し、温かい御支援を賜りまして誠にありがとうございます。まずもって、厚く御礼申し上げます。

私は、前任の高松校長の後を受け、今年4月に着任いたしました山口でございます。私は平成6年4月から同17年3月まで本校に教諭として勤務しておりましたので、実に18年ぶりの本校勤務となりました。その間に、校舎も新しく建て替わり、職員の間も入れ替わったものの、土日の休日を含めて、早朝から何人もの生徒達が、自習室で静かに自習している光景や、グラウンドや体育館で部活動の練習に一生懸命取り組んでいる生徒達の姿を見ると、あの頃と変わらない懐かしさを感じると同時に、明善生を支えている伝統の力を改めて認識させられているところ

さて、これは教育現場に限ったことではありませんが、新型コロナウイルス感染症対策に翻弄され続ける日々も早2年を超えました。ただ、そのような中でも本校生徒は、自らがなすべきこと、そして目指すところを見失うことなく努力を続けてきています。

令和4年度入試においては、一月に実施されました大学入試共通テストで全国平均点が大幅に下がるとい

う厳しい状況の中、生徒達は持てる力を十分に発揮し、頑張り通してくれました。最終的には、東京大学1名、京都大学8名、九州大学48名、国公立大学医学部16名をはじめ、多数の合格者を出すなど、見事な成績を収めています。

また、部活動においても、弁論部、陸上競技部、放送部、文芸部が全国大会に出場し、なかでも弁論部は全国大会優勝、文芸部が大臣賞受賞という輝かしい成績を収めました。また、オーケストラ部、化学部、文芸部は本年七月に東京で開催される全国大会への出場権を獲得しております。

## 退任ご挨拶

前校長 高松 大輔



新型コロナウイルス感染症の終息をひたすら願った令和3年度も終わろうとしています。振り返ってみますと、この2年近くの間、学校は様々な対応に追われました。感染症が流行し始めた当初は、科学的根拠に基づく正確な情報が著しく不足する中、若干の恐怖をも感じながら消毒などの感染対策を行いました。アクリル板や非接触型体温計はもちろんマスクや消毒液さえも入手困難な状況での感染対策でした。

臨時休業中の学習や臨時休業終了後の教育活動についても悩みました。今でこそ、双方向でのオンライン会議やオンライン授業がごく普通に行われるようになりましたが、2年前はオンライン環境の整備や配信する教材の作成も、学校が独自に試行錯誤しながら取り

組むしか方策はなく、大変苦労しました。しかし、一方で「コロナ禍」を経験したからこそ気付いたこともたくさんあります。例えば「学校行事」や「部活動」の意義については、学校行事を中止、延期、または縮小で実施などと判断・決断する過程において、職員は、「学校行事」や「部活動」の意義を改めて認識し、コロナ禍における特別活動や部活動の在り方を模索しました。また、ICTの可能性にも気づきました。コロナ以前、オンライン授業の可能性を信じ、その活用に真剣に取り組んだ職員は多くはなかったと思います。今では双方向のオンライン授業が日常的に行われるなど、様々な形でICTが活用されるようになりました。

コロナ禍で多くの犠牲を払いましたが、一方で学校は大きく成長しました。10年前、5年前の課題とは異なり、近年直面する課題はますます複雑化し、状況は加速度的に変化するようになりましたが、コロナ禍における2年間で、どのような課題にも柔軟に対応できるだけの力を、明善の職員は身に付けたと確信しています。

また、コロナ禍に翻弄される日々においても、生徒たちは力強く前進しています。一月に実施されました大学入試共通テストにおいては、全国平均点が大幅に下がるという厳しい試験でしたが、生徒は持てる力を十分に発揮し、好成績を収めています。部活動においては、弁論部、陸上競技部、放送部、文芸部が全国大会に出場し、なかでも弁論部は全国大会優勝、文部科学大臣賞受賞という輝かしい成績を収めました。また、オーケストラ部、化学部、文芸部は本年7月に東京で開催される全国大会への出場権を獲得しました。生徒達は明善の伝統を受け継ぎながらも、それぞれの個性をしっかりと伸ばしています。

最後になりましたが、明善同窓会関東支部の皆様には、日頃から本校並びに生徒に対し温かい御支援を賜りまして誠にありがとうございます。私はこの3月をもって退任いたしますが、これからも明善高校は生徒・職員一丸となって邁進しますので、今後も益々の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年に開催されて以来2年中断していた大同窓会が今年開催される予定である。令和4年度第55回大同窓会開催要領

日時 2022年10月15日(土) 14時から  
場所 久留米シティプラザ ザ・グランドホール  
幹事団 昭和61年卒 松田一成実行委員長  
ただし、感染拡大予防のため大ホールでの開催となり、楽しみの大懇親会は開催されない予定である。

### 2年ぶりに総会開催、初オンライン

総会実行委員会 平成5年卒 川島 哲也

2021年5月15日、第35回明善同窓会関東支部総会・懇親会を初となるオンラインで開催しました。

2020年春は、第34回の開催に向け、幹事の平成4年卒の先輩方が準備を頂いておりましたが、コロナ感染拡大で止む無く中止となりました。2020年秋以降、平成4年の皆さまと一緒に検討を進めオンライン開催にたどり着きました。実は久しぶりに集まった平成5年卒の同期メンバーを初め、同窓会幹事の諸先輩方のご協力に改めて御礼申し上げます。



オンライン会場

当日は、銀座の貸会議室に臨時スタジオを設け全世界に中継、ネット上には100名超の参加者、海外からの参加もありました。第一部の総会冒頭、井上樹彦関東支部会長挨拶に始まり、来賓挨拶として高松大輔学校長からビデオでのご挨拶を頂きました。続いて、友池哲雄関東支部副代表幹事による事業報告、決算報告、監査役変更の承認を得て総会を終了。第二部の懇親会では、我が平成5年卒を代表し、横浜市立大学大学院教授の高橋秀尚君に、「遺伝子発現のスピード違反が引き起こすがん発症メカニズム」をテーマに講演をお願いしました。続いて、今や全国の「おいでやすこが」古賀憲太郎さん(平成9年卒)によるビデオメッセージ、明善高校の近況、久留米市東京事務所からのお知らせと続き、後半では、校歌斉唱、旧制校歌斉唱、そして、白痴の歌斉唱と、アカデミックな内容からお笑い迄、硬軟、いつもの懇親会さながらのコンテンツが続き、最後は内田直人関東支部副会長による閉会の挨拶にて閉幕。想定以上の仕上がりだったと思っております。画面を通じてご覧頂いた皆さまにもご満足いただけていたら幸いです。

今回の総会は、オンラインツールを新しいコミュニティ

ケーションの形として取り入れ、チャレンジしたことで、今後の活動の幅が広がったのではないかと思います。また、これまで課題となっていた名簿管理や郵便によるご案内等のデジタル化も図れ、皆様ともこれまで以上に身近な同窓会になっていけると確信しています。



総会を終えて

大雨や地震、コロナ禍等の天災を経験したことにより人との繋がりの有り難さを感じています。この同窓会がそういった場のひとつを提供していることを実感したこの準備期間でした。次は、平成6年卒の代に幹事をバトンタッチします。今後も、この明善高校同窓会の繋がりを大事にしていきたいと思っております。

### 今を感じ、楽しむひと

昭和62年卒 久保田 葉  
2022年こそは明るい話題でスタートしたいなあと思いつつ、アルファ、デルタ、オミクロン等々ギリシャ文字が世界中を飛び交い、さらにはロシアがウクライナに侵攻、欧米も巻き込みながら第3次世界大戦にも成りかねないというなかなかカオスな世の中です。

この間、関東明球会も2020年2月の新年会以来、62年卒の同期会も2019年5月以来集まれぬまま、コロナ3年目に。新年会こそ、同窓会こそ、夏の定例会こそ、秋田高校さんとの交流戦こそと、期待を裏切られながら残念無念の連続に、「コロナさんそろそろご勘弁を」と忍耐モードもいい加減切れそうです。人と会えること、話せること、酒を飲めること、一緒に笑えること、キャッチボールができること、当たり前がありがたいものだったなあと痛感します。

昨年、東京オリンピックが無観客での開催、今冬の北京オリンピックが開催されています。それは世界中の選手たちがこの4年間作ってきた心技体が見事に花開いた素晴らしいパフォーマンスになっています。この18年メンタル相談を生業にしているため、ついメンタル面を観察しながらの応援になりますが、これほど我々の校訓「克己・盡力・楽天」が問われた大会はなかったのではないのでしょうか。そもそも「コロナの猛威の中で本当に開催されるのか」不安に押しつぶされそうになる己に打ち克ち、ギリギリまで自分を追い込んで練習し盡くし、最後は開催を天運に任せ、楽しんで最高のパフォーマンスを披露する。自分を信じ、自分の世界観を磨き上げ、集中し、表現し、最後は楽しんでもん勝ち。

ファイギュアスケートで金メダリスト、ネイサン・チエン選手もその一人でした。4年前の平昌オリンピックの悔しい思いからこの4年間毎日強化してきたメンタルのテーマは、コントロールできないものは一切問題にせず「今を感じ、楽しむこと」。

開催の有無、選手村や会場などの環境、他の選手がどんなプレイをするか、観客席の雰囲気、審判のジャッジ、どれも他人事でコントロールできません。コントロールできるものは今この瞬間の自分だけ。楽しい気分です、今この瞬間の感覚に集中し、反復して自動化したパフォーマンスをそのまま表現することです。

何かと不安を掻き立てられ、未来を描きにくい世の中ですが、皆さまどうかまたお会いできることを楽しみに、ご健康に、そして改めて「克己・盡力・楽天」な人生をお過ごしください(笑)。

### 復活！沖食堂そして関東・木更津進出

平成2年卒 米倉和宏  
コロナ禍が始まった頃、我々明善生の青春の味沖食堂が閉店すると聞いて、「沖食堂さえ耐えられなかったのか」と意気消沈するも、近くに移動し、新装開店すると聞いて、開店が待ち遠しかった。しかし、開店したと聞いても、コロナが邪魔をし、なかなか久留米に帰ることができなかった。

そしてついに、2022年1月、コロナが沈静化した隙を見て、沖食堂を訪問。やっとありついた青春の沖食堂。13時過ぎに到着したが、10人弱の行列。今は外に待機椅子が置かれており、待つのは苦にならない。待ってる間に、店の方が注文を取り、なかなかいい流れ。焼飯が復活したというので焼飯とラーメンのセットを注文。私的には、焼飯よりもチャンドンを復活してほしいかった。そしてついに着席。水は相変わらずのセルフサービス。



同期会2019年

ス。カウンターに座ると、新しい大将がラーメンを作っている。確か、明善の卒業生だと聞いたが・・・程なく焼飯到着。おおお、いい匂い。ちよつと焦げた醤油の匂いが、食欲をそそる。一口食べると、塩味がガツンと襲い、その後旨味がのどの奥に付き纏う。レンゲが止まらず、危うくラーメン着井の前に、食べつくすところだった。

そしてラーメン着井。おおお、3年前と同じだ！待ちに待った沖食のラーメン。スープを一口。「あれ？ちよつと匂いが減ったな？」と思ったが、下の上で感じるスープは、あの思い出のスープ。麺は以前と同じ柔麺。「これこれ、これったい、ラーメンは」などと心でつぶやきながら、麺を吸った。具はチャーシュー、薄い玉子、海苔、ネギと変わらぬラインナップ。あつという間に完食。

東京に戻って、同級生に自慢したら、「4月に木更津に支店が出来るらしいよ。」と。

何？木更津に？？なんで木更津？？？

理由はどうであ

れ、4月からは毎月の木更津詣でがルーティーンになりそうで、いっそうのこと木更津に引越そうかと思いを巡らす私であった。



懐かしの一杯

今日の頃思ひ事

昭和41年卒 楠 敏美

私は団塊の世代の昭和22年生まれで現在74歳です。大学を卒業して東京の水産会社で食品を中心に扱い、55歳の定年まで働きました。その後は病院給食を対象にした食品会社を営んで、今も現役で元気に働いています。

私が納入している病院給食のグループについてご紹介いたします。対象の病院給食は全国で1日43万食、この数は偶然にもスローの1日の客数と同じで全国に提供しています。皆様にも入院された折は弊社の食材を食べてもらっているかもしれません。

病院給食は常食と軟食に分かれます。常食は普通の食事がとれる患者向けで、軟食は刻み食や嚥下食です。その比率は常食が4割で軟食が6割です。弊社が納める病院給食の食材の75%は、中国において加工しています。特に骨取りの魚切身は100%が中国加工、コロナ前は毎月中国へ出張していました。

元気に働いてはいても共通知識の不足を痛切に感じます。その原因は高校時代の勉強不足です。高校入学以来、一度も成績が上がったことがなく、何も勉強せ

ず卒業してしまいました。中学時代は高校入試に向けて必死にガリ勉強した。大学時代はクラブ活動と自分の勉強に頑張りましたが、高校時代は何をやっていたのかよく思い出せません。本当に情けない思いです。あと数年して退職したら、もう一度基礎から勉強しながら素晴らしい自分の人生にしたいものだと思います。

また我々団塊の世代は同期とよく集まるものだと思います。全て東京での集まり、中学時代は鳥栖中学校卒の「三八会」で年1回、高校時代は「よい会」で年3回、大学時代は「鹿水会」で年3回、社会人は「うしお会」で年1回です。皆集まっては本当に仲良く懐かしあっています。あんなに現役時代は競争しあっていたのに不思議なものです。

皆に囲まれながら勉強しなおして、豊かな人生を送りたいと思っています。

建築と共に

昭和43年卒 宮崎 裕

建築を始めて50数年が経った。教職を目指していた私が建築に向かったのは街中で偶然知り合った某建築家との出会いによる。交流の中でその世界に導かれるように建築に向かった。夜学に通い建築を学んだ。文系から理系への転向だった。

建築科を卒業した後はアトリエ系の設計事務所、設計施工の会社、老舗の設計事務所などに勤務し、東北地方の観光ホテル・鶴岡八幡宮(国宝収蔵庫)・小田原の二宮神社(博物館)などを担当し研鑽した。30歳で出合いの建築家の事務所に参加し国内外の仕事を手伝い3年後に枝分かれの形で国立市に個人の事務所を開設、数年後には法人へと移行した。

開設から10年程はバブル期でもあり自動車学校や小規模ビルなどの設計(監理)や地方都市での地区計画、台湾での宗教建築計画など順調に仕事の範囲も広がっていった。しかしその矢先、妻が病に伏した。周囲に親族がいらない私は介護・子育てを行いつつ設計を行っていたが、収入の安定を求め(事務所を保全し)ゼネコンへ出向した。(妻は13年の闘病の後成長した子供達に看取られながら他界した)

出向ではそれまでの経験を活かし再開発物件や通信センター、多目的ホール、高層ビル、スポーツ施設(新国立屋根)など様々な施設を担当し更にスキルを伸ばす事が出来た。この仕事は現在も続けている。

夢中で建築に関わり続けて来てあつという間に50年が経ったが建物毎に出会いが有り思い出が残っている。会津の慣れない雪の中の仕事と今も続く当時の友人達との出会い(他界した妻はこの地で知り合った)八幡宮での神職の厳寒の朝の禊。台湾の宗教家の世界

布教への情熱。ゼネコン各担当者の完成への覚悟：等々。

あの日の出会いによって建築に進み多くの人と知り合い建物という足跡も残った。出会いが無ければ別の世界に進んでいた事だろう。

事務所を置き去りにして長い月日が経った。

子供達も独り立ちした。またデザインに戻ろう...と

※50年前出会い導いてくれた建築家とは今でも親しく交流させて頂いている。

「自分らしく日々大切に」

昭和44年卒 菅原裕子

5年ほど前に孫のベビースイミングに触発され水泳初級クラスに通い出しました。カメラを持ち山登りもし体力にそれほど不安はなかったつもりでしたが、バックは兎も角、クロールの息継ぎが上手に出来なくて、12mさえもやっとの思い。その後、4種類泳法の20mになったものの相変わらずクロールが苦手な初心者と一緒にのんびりと泳いでいました。

3年程前から友人に東京体育館での泳ぎに誘われていましたが、そのレベルではないと断り続けていました。その友人はエネルギーシミュ、トライアスロンにも参加していましたが、練習中の事故で生死を彷徨ったままマラソン大会にも出場、テレビ番組「アンビリーバブル」にもなりました。昨年10月、又お誘いの電話があり、余りの熱心さに体験会に出てレベルの違いを納得してもらった方が早いと参加してみました。東京体育館は12月迄工事中、その間他の25mプールで慣れ

ておく方がいいという話、その25mさえも無理なところをみてもらおうと思ったのです。指導はローマオリピックのメダリスト旧姓田中聡子先生、80歳になられました。先生も「あなたは休んでもいいから」と受け入れてくださるのでとうとう入会、1月からは50mの足がつかないプールに挑んでいます。お休みをしながらも1時間半泳ぐのはハードですが、人と比べず出来なかった自分に微々たるものでも進歩を感じられ



新国立競技場にて (一番右筆者)

ることが楽しくて、諦めずに誘ってくれた友人に感謝しています。

そしてライフワークは写真。9年前、日本の四季をテーマにオリンパスギャラリーで個展をした時は、大勢の関東の同窓生や先輩方にご来廊頂き有難うございました。大変嬉しく感謝申し上げます。

20年ほど前は花の写真を見望遠でフィルターレンズ等を使い、カメラでしか見えない幻想的な世界に魅せられてフィルムで、その後デジカメで風景写真を撮るようになり4000分の1秒の鳥の羽ばたきの一瞬や3分の長露光写真等やはりカメラでしか見えないものもあり、色々自由で撮ること楽しんでます。明善3年上の「帯木蓬生」先輩、1900年のパリを舞台にした『薔薇窓』は全体に暗い作品ですが、ラストにカメラの多重露光を使った美しいシーンが出てきて救われた感じがしました。コロナ禍で撮影に行くことも憚られますが、最近はずパソコのソフトを駆使し家でフォトアートを制作しています。



クリスマスローズ

ここ数年は環境問題、特に海洋汚染に関心があり、森の大切さや水の問題等、排水などの普段の生活から意識することが多くなりました。30年来の友人で社会派のアーティストがいます。柔らかい笑顔の彼女はニューヨーク時代、強盗にナイフを突きつけられても睨み返して退散させたという程の強者です。海外の活動家と交信をしながらも近所のもっと高齢の方に手作り食を届けている情の深い方でもあります。政治的な社会の負の部分に抗議をする彼女と最近再会し、語り合う中で心に関心のある私は自身に向き合い、私らしさとは何かを考えると、マイナスに目を向けるのではなく、今まで以上に光を表現したいと強く思いました。最初は母の為に入院中でも癒されるような写真をとって始めたものですが、花や昆虫、日本の四季を撮るうちに水の惑星である地球が愛おしく森の一滴の潤いから生まれる自然の豊かさや美しさを私なりに表現出来ればと思うようになりました。そして彼女との再会がその思いを強めたので、今までのテーマで30点ほど制作していますが、これからはもっと深めていきたいと思っています。人と比べるのではなく、自分らしくあること。纏まりましたら、又、ご高覧頂ければ幸いです。

お互いを認め合い、自分らしくいられる人との繋が

りを大切にして、自由であることで、最近生き生きしているねと言われることがあります。今日を生かさされていることに感謝して、日々を大事に過ごしていきたいと思っています。

### 「東京オリンピック」の思い出

昭和42年卒 長岡 健

1年遅れで第32回オリンピック東京大会が開催され、日本選手の素晴らしい活躍に一喜一憂しましたが、前回の昭和39年第18回オリンピック東京大会は、昭和42年卒業生にとっては人生の中で節目に当たる出来事であった。というのも我々は昭和39年4月に入学した明善1年生だったのです。

大会前、久留米の15歳の若者にとっては、東京では国立競技場、武道館や首都高速道路、地下鉄の整備が進んでいても、全国を巡る聖火リレーが話題になる程度で、「東京オリンピック」が「どげんなとかな？」程度で、三波春夫の「東京オリンピック音頭」で浮かれているような状況ではなかったのです。ただ、その年は例年秋開催の国体が6月初旬に新潟で実施され、わが硬式庭球部から女子が参加するので久留米駅のホームで見送り「今年は国体ははやかね！」というぐらいにしか思っていないで済んでいました。余談ですが、その国体終了の1週間後に新潟地震が発生しわれわれも僅かながら義援金を贈った記憶があります。

大会が近づくにつれ、TV（カラー放送が開始）やラジオそれに新聞でも連日オリンピックの話題で埋まり、はたまたオリンピックに合わせて東海道新幹線が開通ともなると、もうこちらの気持ちまでオリンピックで一杯になってきたのを思い出します。開会式当日はTVで見ると学校からとにかく早く帰宅したのを思い出し、特に当日の秋晴れの空にブルーインパルスが描いた五輪マークに感激し、日本選手団の糸乱れぬ行進に気持ちの高ぶりを覚えたものでした。

時間が合えばTVでの観戦、あとはTV、新聞の結果に一喜一憂したものでした。特に印象に残ったのは、女子バレーボールで宿敵ソ連を破った瞬間、サーブであった若い宮本選手がコート上の反対を向き、両手で顔を覆い号泣した場面、柔道無差別級でオランダの赤鬼ヘーシンクに抑え込まれ敗れた神永選手がなかなか畳から起き上がれなかった場面、それに最終日のマラソンでエチオピアのアベベ選手の甲州街道を裸足での力走もありましたが、陸上競技場に入り織田選手のゴール後の口惜しさあふれる表情がまだに忘れられません。その岡谷選手は大会後、陸上自衛隊幹部候補生となり、当時の明善高校北校舎グラウンドで練習し

ているのを見た明善生も多くいたはずですが、その後若くしてお亡くなりになったのは唯々残念というしかありません。

昨年の第32回東京オリンピックも、それなりの皆さんの感動を覚えました。57年前のそれとはまた違った感慨があったといえそうです。私事ですが、先に述べました新潟についてですが転勤により昭和62年10月から8年半に亘り新潟に居たのは何かの縁ですね？

オリンピック半年後に市川昆監督の記録映画「東京オリンピック」、その斬新な映像と色彩に改めて感動と感激を味わったのも懐かしい思い出です。又、今でも「五輪と日の丸」を配した当時のポスターを見ると何か胸に訴えられるものを覚えます。

昭和39年の東京オリンピックは我が国日本にとって、その後の驚異的ともいえる経済発展を遂げ、冬季オリンピックも札幌、長野と2回も実施し、名実ともに世界の中の地位を確立するに至る転換点になったといえそうです。

そして昭和42年卒の我々は、まさにその時各々の未来へのスタート台に立っていたのです。

「あれからもう57年経ったたいね！今まであつという間のこたつ気のすんね！」

### コロナ禍の楽しみ

昭和46年卒 本村龍史

ここ20年の楽しみは毎年の海外旅行、年に10回は旅行に出かける僕が昨年なんと国内2回しか出かけられなかった。楽しみにしていたスペイン旅行は2年前から申し込んでいたものも旅行中止、1年後輩の高田橋さんの旅行社のお世話で秋に予定していたオーストラリアも出国できず。

そんな中、少し収まった4月に誰もいないだろうと沖永良部島へ2泊で出かけた。鹿児島空港で沖永良部島へ何とプロペラ機に乗り換え向かった。案の定機内は空席が目立つ。沖永良部島の上空へ来たが何度も旋回しては下降するも着陸せず。おかしいと思いつつ外を見ているとようやくアナウンス。強風のため鹿児島空港へ戻りますと。昔々ムーンライトと称して夜11時過ぎ板付空港を出て朝5時前に羽田空港へ着くYS11やフレンドシップに乗って以来の長時間プロペラ機だった。その夜は当然鹿児島空港近くのホテルへ、一人東京から遅れてくる仲間からメールが届いた。強風で着陸できず羽田に戻ると。このグループでの旅行は本当に毎回何か起こる。

以前タイのチェンマイに向かう成田空港でチェックイン、同行者が荷物の行き先札「バンコク」で気が付いた。当日バンコクで乗り換えチェンマイ泊の筈なの

にバンコク？何故？カウンターに尋ねるとバンコクでの乗り換え機は翌日便が予約されているとの事。そんな筈はない。旅行日程でもホテルの予約でも当日乗り換えだしホテルもチェンマイになっている。夜9時頃出発、当然旅行社は電話に出ない。やむを得ず家が電話し、旅行社の担当者捕まえてもらう事として飛行機に乗った。バンコクに着くと現地旅行社が待ち受けており丁寧に説明。どこで間違えたか分からないが、私達はバンコクでの乗り換えは翌日だが当日のホテルはチェンマイと。急遽バンコク泊、翌朝チェンマイへ向かう事となった。翌日のチェンマイはまぶしいほどの良い天気。迎えるガイドと無事対面、第一声「あなた達はラッキーね」と、昨日チェンマイ入りしていたなら、大雨でどこにも行けずホテルで過ごすことになったと。すっかり天気は回復しエレファント・キャンプや象に乗ってのリス族の村へも予定通り行けると。エレファント・キャンプでは象が鼻で筆を持ち絵を描く、それはとても立派な絵でその場で販売された。バンコクに戻ると現地旅行社の社長直々にお出迎え、しかも旅行者では予約出来ない有名なレストランを予約してきてくれた。

話は戻り、沖永良部島は何もないところだが、ケービング(鍾乳洞探索)と西郷隆盛が過ごした牢が有名だ。ヘルメットとヘッドライト、懐中電灯を手にガイドに案内してもらったこと2時間、その素晴らしさは文章で伝えることが出来ない。コロナ禍で観光客もいない時だからこそ良かったかも。

もう一つは感染者が激減した12月、観光が難しいので車で解禁になった越前ガニを食べに行こうと、6人であわら温泉へ。通常1泊2万円を超えるくらいだがタグ付き越前ガニコースでは何と6万円!!先付・作り・酔の物・焼きガニ・煮物・蒸し物・タグ付き越前蟹一杯・セイコ蟹一杯・揚げ物とすべて越前蟹でみんな2時間以上黙々と食べ続けた。30cm大皿の殻入れがいっぱいに。以前広島牡蠣のコースでは満腹断念、このコースは飽きることなく食べ続けた。目的が蟹だったが、さすがに翌日は永平寺と九頭竜ダムに寄って帰路に付いた。

今年も4月に西表島、6月北海道、秋に城崎温泉を計画、3年目に入ったスペイン旅行の予約をしたい。今年も古希の歳、早くしないと体力が持たない、そこどころか生きていられるか…。どこか頼りない、情けない年寄りの戯言にならないようにしたいものだ。

### カニカニエブリバディ

コロナ感染が減少した間隙を縫って小旅行へ。久留米に住む姉夫婦と京都で落ち合い、令和3年12月に晩秋の古都をたつぷり堪能。レンタカーで天橋立を訪れ念願の「股のぞき」に熱中。夜はずわいが目を指して城崎温泉だ。この年はカニの値段が高いようだが、はるばる久留米と東京合流の客に旅館も大サービス。さすが「かに王国」城崎温泉。カニ三昧。うれしカニ。両手でVサインだ。

そして翌日竹田城を目指してドライブしていると、携帯に写真メールを着信。なんと昨晩食べたずわいがの写真ではないか。同級生のつるちゃんからだ。説明に「ことはカニがめっちゃ高いので、街で手に入れたチラシの写真を見ながらカニタマを食べる」とある。あまりのタイミングの良さに、ひよつとしてGPSやドローンのカメラを使って追跡されているんじゃないか？と思わず空を見上げたのだ。そうか、つるちゃんは今カニカマか。カンニンな、いつかコロナ終息の暁には学年同窓生全員集合して「カニカニエブリバディ」パーティを盛大に開催しようと思心誓った。



股のぞき



天橋立

○関東支部役員	
会長	井上 樹彦 (S51)
副会長	土肥 義政 (S31)
	内田 直人 (S51)
	古賀 啓子 (S41)
	山口 務 (S45)
代表幹事	山池 哲尚 (S51)
副代表幹事	友賀 尚之 (S45)
事務局局長	古賀 美子 (S47)
副事務局局長	五十嵐 秀明 (S60)
ゴルフ委員長	井手 美晃 (S55)
U30委員長	伊東 浩司 (S61)
監査役	尋木 信也 (S31)
顧問	泉 一成 (S41)
	賀 勉 (S54)
	大久保 信之 (S31)
	松平 喜秀 (S41)
相談役	別府 秀渡 (S44)
	瀬戸 渡

(2022年4月1日現在)

編集後記 感染対策に気をつけ各地へ旅に食にと楽しめた様子、先の東京オリンピック年の明善入学時の思い出、また新国立競技場建築に至る建築家の興味深い話だった。働きがいのある食の仕事や充実したライフワークの取り組みに熱いものを感じた。コロナ収束を願いつつ、同窓会や同期会の活動も元に戻り、次回も更に明るい元氣もたらえる話題を届けたい。(内田)